

7) 大学・短期大学卒業者の受け入れに関する検討の必要性

今後短期大学・大学卒業者の受け入れに関して検討の必要があると思われることを回答してもらった(表1-9)。

その中で最も多い回答は「一般教養科目に関して大学・短期大学で取得した単位の認定」、次いで「専任教員の増員」、「実習教員の増員」などマンパワー整備の問題や、「奨学金の充実」があげられている。

表1-9 今後短期大学・大学の卒業者の受け入れに関して検討の必要があると思われること(複数回答)

一般入試とは受験科目の異なる特別入学枠の設定	80 (24.6)
一般教養科目に関して大学・短期大学で取得した単位の認定	136 (41.8)
専任教員の増員	100 (30.8)
実習指導教員の増員	89 (27.4)
奨学金の充実	84 (25.8)
就学しながら学べる方策の検討	16 (4.9)
そ の 他	28 (8.6)
回 答 校 数	325 (100.0)

第2部 看護短期大学

I 属性

1) 設置主体

回答のなかった学校を含む全校の設置主体別分布と比べ大きな差はない。設置主体は、表2-1の通りである。

表2-1 設置主体

	回 答 校	全 校
国(文 部 省)	14(33.3)	23(37.1)
都 道 府 県	9(21.4)	13(21.0)
市 町 村	3(7.2)	4(6.5)
日 赤	1(2.4)	2(3.2)
学 校 法 人	15(35.7)	20(32.3)
合 計	42(100.0)	62(100.0)

2) 一学年定員数

一学年定員数は、平均73.8人、最小40人、最大100人である。

3) 専任教員数

回答校1校あたりの専任教員数は、平均22.2人、最小13人、最大50人である。

II 応募・入学状況

1) 1994年度の応募者数、受験者数、入学者数

応募者数は、3年課程の看護学校と同様、一般入試が15,119人と最も多い。受験者数も、一般入試が最も人数が多い。実際に受験する受験者数の比率(B/A)は推薦入学が92.3%と多い。競争率は、2次募集が14.2倍と最も高いが、すべての学校が2次募集を行っているわけではない(表2-2)。定員に対する入学者の比率は、104.5%である。入学者のうち、一般入試による入学者が最も多く、72.0%を占める(表2-3)。

表2-2 1994年度に応募者数、受験者数、入学者数

	一般入試	推薦入学	2次募集	合計
応募者数(A)	15,119人	2,207人	102	17,428人
受験者数(B)	12,900人	2,038人	85	15,023人
入学者数(C)	2,334人	900人	6	3,240人
B/A×100	85.3%	92.3%	83.3	86.2%
競争率B/C	5.5倍	2.3倍	14.2	4.6倍

42校の総計

表2-3 定員に対する入学者の比率

一学年定員	3,100人	100.0%	—
入学者計	3,240人	104.5%	100.0%
一般入試	2,334人	75.3%	72.0%
推薦入試	900人	29.0%	27.8%
2次募集	6人	0.2%	0.2%

2) 1994年度の大学、短期大学卒業者の応募、入学状況

表2-2に示した応募者、受験者、入学者数のうち、大学・短期大学卒業者(男女別)を再掲したのが表2-4である。短期大学卒業者の女子の応募者が77人と多いが、入学者比率(応募者のうち実際に入学した者の比率)を見ると15.5%と、大学卒男女、短期大学卒男子と比べて低い。短期大学卒男子の応募者は4人と、数は少ないが、全員が受験して合格し、入学している(表2-4)。

表 2 - 4 1994年度の大学、短期大学卒業者の応募、入学状況

		応募者 (A)	受験者 (B)	入学者 (C)	入学者比率 (C/B×100)
大学卒業者	女子	38人	34人	14人	41.2%
	男子	8人	6人	1人	16.7%
短期大学卒業者	女子	77人	58人	9人	15.5%
	男子	4人	4人	4人	100.0%

*応募者・受験者の学歴別受験者不明9校を除く33校の総計

3) 過去3年間の大学卒業者の受け入れ状況

過去3年間に大学卒業者、既婚者、社会人など、特定の属性の入学者や応募者がいたかをたずねた。「入学したことがある」と答えている学校の割合は、大学卒業者が57.1%、短期大学卒業者45.2%、既婚者40.5%、子ども有り26.2%、就労経験者(社会人)4.8%、年齢30歳以上32.0%となっている。

「就労経験者(社会人)」については、応募者はあったが入学者がいないと答えた学校の割合が61.9%と高い。また受け付けないと答えているのが学校も、16.7%にのぼる(表2-5)。

表 2 - 5 過去3年間の大学卒業者の受け入れ状況

	入学したことがある	応募者はあったが入学者はいない	このような応募者はいなかった	このような応募者は受け付けていない	無回答・不明	合計
大学卒業者	24 (57.1)	3 (7.1)	10 (23.8)	1 (2.4)	4 (9.6)	42 (100.0)
短期大学卒業者	19 (45.2)	7 (16.7)	8 (19.0)	1 (2.4)	7 (16.0)	42 (100.0)
既婚者	17 (40.5)	4 (9.5)	12 (28.6)	1 (2.4)	8 (19.0)	42 (100.0)
子ども有り	11 (26.2)	3 (7.1)	17 (40.5)	1 (2.4)	10 (23.8)	42 (100.0)
就労経験者 (社会人)	2 (4.8)	26 (61.9)	5 (11.9)	7 (16.7)	2 (4.8)	42 (100.0)
年齢30歳以上	17 (32.0)	9 (23.7)	12 (26.2)	0 (0.0)	4 (9.5)	42 (100.0)

4) 大学・短期大学卒業者を受け入れたことについての評価

大学・短期大学の卒業者を受け入れたことについての意見を自由に記述したものをまとめた。

短期大学卒業者に対してよりも、大学卒業者に対するものの方がプラスの評価の割合が高い(表2-6)。

表2-6 大学・短期大学卒業者を受け入れたことについての評価（自由記述）

	大学卒業者について	短期大学卒業者について
大学・短期大学卒業者が入学したことがある学校	24(100.0)	19(100.0)
プラスの評価を記した回答	17(70.8)	9(47.4)
その他の回答(どちらともいえない, プラス, マイナスもあるなど)	2(8.4)	5(26.3)
無 回 答	5(20.8)	5(26.3)

自由記述

大学卒業者

- ・考え方に柔軟性がある。実習などでは臨機応変の対応が出来る。リーダーシップのとれる人が多い。
- ・一般に成績が良く、他の学生の刺激になった。
- ・目的意識が明確であり、クラスのリーダー格として行動できる。クラスメートの相談者になっており信望もある。
- ・入学目的がはっきりしている。入学後の学習態度が非常に真面目で、よく努力する。従って学業成績も良い。他の学生に与える影響も良い。
- ・28歳（国立大学卒業）、22歳（私立大学卒業）の大学卒業者を受け入れた体験があるが、2名とも大変有能でまた、クラスの中でもリーダー、あるいは相談相手としてよい役割を果たした。その後1名は短期大学教員として、その力を発揮している。問題点はない。
- ・特に問題点はなく、最後まで努力し卒業できていたが、全寮制なので、寮生活への順応については別問題である。通学可能であれば問題はないと思う。
- ・高校卒業者と比べて、看護に取り組む姿勢が良いように思われる。
- ・大学では、自ら主体的に学ぶものであるということを理解しているのか、学習への取り組みが積極的である。クラスの中でリーダーシップを発揮している。
- ・心理系統を専攻した卒業者が2名入学した。その方面の理解は良いが、そちらに引かれがちで、卒業後も大学の健康相談室、またはターミナルで、精神面への援助が濃厚な職場に就職した。心理面への興味が高いためか、やや身体面への関心が薄く見えたが特に問題はなかった。
- ・人間的に成熟している学生だったので、高校からストレートにきた学生には良い刺激となった。学習する雰囲気生まれた。本人に問題はなかったが、看護婦の教師の指導方法に批判的であった。1名は専攻科助産学に進学し、1名は元の英語教師に戻った。
- ・問題はない。むしろ多様な学生がクラスにいて、刺激となって学生の視野が広がる。また年長者がクラスのリーダーシップをとってくれる場合もある。
- ・受講態度がまじめで意欲的であり、看護に対し視野が広く今後積極的に受け入れたいと考えている。
- ・問題点として、大学で受講した一般教養の単位を全部認めることが出来なかったこと。一応、「良」

以上の成績の単位は認めている。

- ・精神的不適応症状を起こした学生がいた。
- ・入学時、大学卒業後18年経過し、就業体験もない者であったが、特に問題点も何もみられなかった。良い点は、真面目さであり、年齢の影響から相当努力していた。

短期大学卒業生

- ・目的意識があり、学習態度は、前向きで良かった。
- ・特に目立った点はない
- ・現役の学生と共にまじめに努力していた。寮生活の順応に問題があった。
- ・年齢が上であることで、クラスをまとめあげたりする力がある学生もいるがそうでない学生もいて一様ではない。

5) 大学・短期大学卒業生の今後の受け入れ方針

今後、大学、短期大学卒業生を受け入れていきたいかという間に、「積極的に受け入れていきたい」と答えているのが10校 (23.8%) 「受け入れていきたい」と答えているのが23校 (54.8%) である (表2-7)。

3年課程看護学校と同様、大学・短期大学卒業生を受け入れる意志のある学校の比率は高い。

表2-7 今後、大学、短期大学の卒業生を受け入れていきたいか

積極的に受け入れていきたい	10 (23.8)
受け入れていきたい	23 (54.8)
できれば受け入れたくない	0 (0.0)
受け入れない	0 (0.0)
無 回 答	9 (21.4)
合 計	42 (100.0)

受け入れたい理由 (自由記述)

1. 積極的に受け入れたい

- ・看護学は歴史が浅く、他の専門科学の領域で学び研究した経験を生かすことにより、深め広めることが出来ると考える
- ・受験生を確保し優秀な人材に入学してもらいたい。
- ・入学目的がはっきりしている。入学後の学習態度が非常に真面目で、よく努力する。従って学業成績も良い。他の学生に与える影響も良い。
- ・特に理由はないが、希望する学生には当然のこととして門扉を開放する。
- ・多様な経歴の学生を受け入れたいことが基本にある。
- ・潜在看護婦のカムバック作戦と合わせ、今後は大学卒、短期大学卒で子育てを終えた女性も看護を学

んで、仕事にカムバックしてほしいと考えている。

- ・基礎学力があり動機もしっかりしているので学習への適応も早く、看護実践力がある。
- ・多様な学生がいることで、学生同士の刺激になる。

2. 受け入れていきたい

- ・「大卒」というだけで特別に入学させることは考えていない。大卒であってもなくても、基準に合っている人がいればということで考えている。
- ・能力があり、かつ就学を希望する者にはその機会を提供すべきである。幅広い教養を学習してきた人材の宝庫と考えられる。少なくとも高校生より人生体験が豊かであり、自己の意志を確認して看護を希望してきている。今後18歳人口の激減から定員80名を確保するためにも受け入れたい。
- ・希望者があれば受け入れたい。
- ・高校卒以上を入学資格としているため。目的意識がはっきりしており、クラスメートに良い影響を与えてくれると思われるので。
- ・本人は、大学生活を経験しているが、入学の動機が「生涯の仕事」と明確であるため、学ぶ姿勢も他の学生と異なる。クラスの中で推進力となるので受け入れていきたい。
- ・しっかりした目標をもって看護の道を目指す人は誰でも受け入れたいと思う。
- ・看護職は、人間的に成熟した人が望まれるので、他大学、短期大学の卒業生を受け入れることは、学生にとってもお互いに良い刺激になると考えられるので。
- ・所定の単位（一般教養）がとれていれば問題ない。幅広い学習が看護の視野を広げる。他の学生に良い刺激となる。
- ・彼等はすでに学生生活を経験し新たな道を選ぼうとしているわけで、看護学を勉強してみたい、看護職になりたい等、目的意識が高いと考えます。教育機関は、意志ある人に、全面的に門戸開放すべきだと思う（試験が受けられるという意味で）。

6) 大学・短期大学を卒業した学生の就職先と問題点

大学、短期大学を卒業した学生の就職先に関して自由に記述してもらったものをまとめたところ、次のような回答があった（表2-8）。

表2-8 大学・短期大学を卒業した学生の就職先と問題点（自由記述）

就職先など	
附属・系列病院	23校
特徴無し	1校
まだ卒業生が出ていない	4校
特殊なところ	1校

卒業後の進路の問題点として「年齢面で不利」という回答が5校より寄せられた

7) 大学・短期大学卒業者受け入れのために行っている対策

一般入試とは受験項目の異なる特別入学枠の設定をしている学校は、2校(4.8%)である。

一般教養科目に関して大学・短期大学で取得した単位の認定は、29校、69.0%が行っている(表2-9)。

表2-9 大学・短期大学卒業者受け入れのために行っている対策

	一般入試とは異なる特別入学枠の設定	一般教養科目に関して大学・短期大学で取得した単位の認定
行っている	2 (4.8)	29 (69.0)
行っていない	39 (92.9)	12 (28.6)
無 回 答	1 (2.4)	1 (2.4)
合 計	42 (100.0)	42 (100.0)

8) 大学、短期大学卒業者の受け入れのための今後の対策

今後、大学、短期大学の卒業者の受け入れのため、取るべき対策として、最も回答が多かったのは、「一般教養科目に関して大学・短期大学で取得した単位の認定」(73.8%)。次いで「奨学金の充実」(35.7%)となっている(表2-10)。

表2-10 大学、短期大学卒業者の受け入れのための今後の対策(複数回答)

一般入試とは受験科目の異なる特別入学枠の設定	10 (23.8)
一般教養科目に関して大学・短期大学で取得した単位の認定	31 (73.8)
専任教員の増員	5 (11.9)
実習指導教員の増員	5 (11.9)
奨学金の充実	15 (35.7)
就学しながら学べる方策の検討	5 (11.9)
そ の 他	7 (16.7)
回 答 者 数	42 (100.0)